

# ムクドリ

*Sturnus cineraceus*

ムクドリ科・夏鳥(少数が越冬)

## 名前の由来

棕(むく)の実を食べるのでついたといわれる。  
漢字名：棕鳥



撮影：浦幌野鳥倶楽部

ムクドリ

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ  
ウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(葦原・樹林)  
鳥類  
ワシタカ

## 特定種

該当なし

## 形態的特徴

全長(くちばしの先から尾の先まで) 24cm。

尾は短めでくちばしと足の黄色っぽいオレンジ色が目立つ。体は全体的に灰黒色で頭と翼、またのどから胸は黒みが強い。顔には白い羽毛が目立ち、腰も白い。

メスは少し褐色味が強い。

声：春のごく短い時期に「キィーキィー、コロココロン、ウギヤー、コンコンコココン、キチキチキチ」などと変化に富む声で鳴くことがあるという。

地鳴き(さえずりではない普通の鳴き方)では「キュルキュル」とか「リャーリャー」とうるさく鳴く。警戒時には「ジャー」と鳴く。

飛び方：連続はばたきし着陸する際、翼を三角翼に固定して降りる。

歩き方：人間のように片足ずつ交互に出しながら移動する。

類似種と区別点：コムクドリ。

コムクドリのオスは白い頭に赤茶色の頬を持つ。メスは頭から胸・腹にかけて灰白色。またコムクドリの腰は淡橙色で、くちばしと足は黒。



ムクドリ。くちばしのオレンジ、顔と腰の白が特徴



ムクドリ。くちばしの他足もオレンジ色

## 生息環境・分布

農耕地、公園、山麓の林など、乾燥して開けたところを好む。樹木が点在する村落や市街地に多い。十勝では基本的に夏鳥。

分布：中国、朝鮮、モンゴル、ロシア極東南部に分布する。

日本では全国に留鳥として年中生息。九州南部や沖縄では多くない。

北海道では3月中～下旬に渡来、繁殖する夏鳥だが、道央や道南で越冬するものが増えている。農耕地、農耕地内の林、住宅地、公園などに生息するが、山地の森林にはほとんどいない(藤巻、1998)

十勝には、3月中～下旬に渡来、繁殖する夏鳥。平野部の農地周辺、人家周辺の林に生息。住宅地で少数が越冬する。

## 生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
本州以南 (越冬期・通年)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

## 食性・他生物との関わり

雑食性で、動物質ではミミズや昆虫、両生類、植物質では穀物や木の実、果実など多岐にわたる。

芝地や畑などの地上を歩きながら採餌する。

秋に食べたネズミモチ、エンジュ、ヘクソカズラなどのみがペリット（不消化物がはき出されたもの）や糞の中から採集され、ムクドリが種子の散布を行っていることがわかっている。

ヒナには鱗翅類（ガやチョウ）の幼虫などの動物質の餌を与えることが多いという。一方でサクラ類の実を運ぶこと

もあるという。  
捕食者は猛禽類など。



草場で餌を探すムクドリ

## 繁殖生態

繁殖期は3月下旬から7月、一夫一妻で繁殖するが、希に一夫二妻や一妻二夫となることもあるという。

営巣場所が分散しているつがいも分散して繁殖するが、営巣場所が集中すると半集団や集団で繁殖する。

なわばりは巣穴を中心に作られ、巣穴自体が守られる。

本来の営巣地は樹洞。つがいは巣穴の底に枯れ草や枯れ葉を敷き詰め、羽毛などで産座を作る。(→興味深い話の項参照)

4～7個産卵し、オスとメスが交代で卵を抱くが、夜間はメスだけが抱くという。

12～13日でヒナはかえり、約23日間オスメス共同で育てられた後巣立つ。

巣立ちヒナは親鳥とともに家族群で暮らし、約1ヶ月後に独立する。

## 興味深い話

■標識調査で、7年1ヶ月の生存が確認されている。

■人里の近くに棲む鳥。明るい林の樹洞に巣を作るが、家の隙間や巣箱もよく利用する。

■巣作りの際、産座の材料として羽毛の他に、セロハンやナイロン片も利用されるという。

■別の親鳥の巣に受精卵を産み付けて、育てさせる「種内托卵」が行われる。

■餌はなわばりの外で取り、通常100～500m離れた採食地まで出かけるという。

■繁殖期が終わると群れで生活し、北海道西部地域では数

千羽から数万羽のねぐら集団を作ることもあるが、十勝ではそれほどの大群となることはない。ねぐらに入る前に電線などに並んでとまり、にぎやかに鳴きかわす。



ねぐらに向かう前に電線に集まったムクドリの小群

## 配慮事項

都市周辺の環境に適応し、数を増やしている鳥である。

### 参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)  
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995  
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理学研究室 2000  
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)  
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993  
「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996  
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997  
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987  
「名前といわれ 日本の野鳥図鑑① 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995

「鳥類の繁殖戦略(上)」山岸哲 編、東海大学出版会 1986

「鳥のはなしII」中村和雄 編著、技報堂出版 1986

藤巻裕蔵 (1998) 北海道中部・南東部におけるコムクドリとムクドリの生息状況、帯大研報、20: 245-252.

橋口大介・上田恵介 (1990) 果実食者としてのムクドリ *Sturnus cineraceus* -“ペリット”分析の有効性- Strix、9: 55-61.

田原徹 (1974) 志賀高原に初めて繁殖したムクドリの雛の食物、信大志賀自然教研業績、12: 143-145.

黒田長久 (1957) ムクドリの調査、第2報 蕃殖(2)、山階鳥研報、(10): 413-426.

黒田長久 (1959) ムクドリの調査、第2報 蕃殖(3)、山階鳥研報、(13): 535-552.

魚類

底生動物

両生類  
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)  
草花

(外来種)  
草花

哺乳類

(水辺)  
鳥類

(葎原・樹林)  
鳥類  
ワシ・タカ